

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は高値圏で荒れた動きながらも底堅い展開か

[6月27日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月20日～6月24日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	135.08	136.71(22)	134.27(23)	134.82	-0.20
ユーロ・ドル	1.0483	1.0606(22)	1.0463(20)	1.0537	+0.0038
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,491.97	+528.97	日本10年債利回り	0.226	-0.002
ダウ平均株価	30,677.36	+788.58	米10年債利回り	3.087	-0.139
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 27日 日本4月景気動向指数改定値
米5月耐久財受注速報値
欧州中央銀行 (ECB) フォーラム (29日まで)
- 28日 米4月住宅価格指数、米4月S & Pケースシラー住宅価格指数
米6月消費者信頼感指数
- 29日 日本5月小売業販売額
豪5月小売売上高
独6月消費者物価指数速報値
米第1四半期国内総生産 (GDP) 確報値
北大西洋条約機構 (NATO) 首脳会議 (30日まで)
- 30日 日本5月鉱工業生産指数速報値
中国6月製造業購買担当景気指数
英第1四半期国内総生産 (GDP) 確報値
スイス6月KOF先行指数
独6月雇用統計
米5月個人所得・個人支出、米新規失業保険申請件数
米6月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日本5月有効求人倍率、日本5月雇用統計
日銀短観 (6月調査)
中国6月財新製造業購買担当景気指数
ユーロ圏6月消費者物価指数速報値
米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出

【前回のレビュー】今年末時点でのFOMCメンバーによる米政策金利の見通しは3.4%となっており、今度の経済指標の結果などに左右されるものの、今年残り4回の会合では毎回0.25～0.75%程度の利上げが見込まれる。米長期金利も緩やかに上昇する可能性が高く、ドル円は底堅い動きとなりそうだ。ただ、テクニカル面での修正安の可能性もあり、高値圏で荒れた動きが続くとみられるとした。

【米国の利上げによる景気減速懸念が広がる】

米連邦準備制度理事会 (FRB) は15日に米連邦公開市場委員会 (FOMC) の結果を公表して、政策金利を0.75%引き上げることを決定した。パウエル議長は「次回の会合では、0.50%か0.75%の利上げの可能性が高い」との見解を示した。

6月10日発表の5月の米消費者物価指数が市場予想を上回ったことで、物価上昇圧力の鎮静化には大幅な利上げの継続が必要になるとの見方が広がっている。金利に敏感な

住宅市場では、米中古住宅市場を中心に減速傾向が示されている。こうした状況が米国の景気全般に広がるとの警戒感が広がりつつある。

景気減速への警戒感からN Yダウは6月はじめに3万3000ドル近辺で推移していたものの、一時3万ドル割れまで下落した。主要国の株価も金利上昇による景気減速懸念から下落基調で推移している。こうした中、本来はF R Bによる利上げで米長期金利は上昇してもおかしくないはずだが、景気減速懸念やリスク警戒感から国債が買われて米債利回りは伸び悩みを見せている。

22日のパウエル議長の議会証言では、インフレを抑制する姿勢を強く示すとともに、米経済をソフトランディングさせるのは難しいとの見解を示した。景気後退を避けながらインフレを避けることが困難になっているとの見方を示しており、景気後退の可能性はありうるとしている。

F R Bによる利上げ継続と、日銀による緩和策の継続は日米の金利差拡大につながり、ドル買い円売りの基本的な構図に変化はないとみられる。とはいえ、F R Bによるインフレ抑制のための積極的な利上げは、米国の景気を想定以上に冷やす可能性があり、一段の株安にもつながる可能性がある。

今後、FRBによる利上げの米実体経済への悪影響が顕在化するようだと、一段の株安や米長期金利の低下などにより、ドル買いの流れが転換あるいは減速する局面もありそうだ。さらにリスク回避の円買いにも傾くようだとドル円は高値圏で伸び悩みを見せる可能性も出てくる。

米国では利上げにより、インフレが本当に抑制できるのか、利上げにより景気を冷やして景気後退が起きるのかといった点が市場参加者の関心事となっている。円安の進行が続いており、日本の政府や日銀などの当局者は口先介入も見られる。ただ、実弾を使った為替介入は米国など他国の政府の了解も得られにくく、効果も一時的とみられ、実施される可能性は低いとみられる。

ドル円は21日に136.71前後まで上昇して、約24年ぶりのドル高円安水準に振れた後は高値圏で上げ一服となっている。ドル買い円売りの基調に大きな変化はないとみられる。株安によるリスク回避の円買いやテクニカル面での警戒感を除くと、下げても買いに支えられやすい流れが見込まれる。このため、ドル円は高値圏で荒れた展開ながらも底堅い展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、133.00～139.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、27日に日本4月景気動向指数改定値、米5月耐久財受注速報値、28日に米4月住宅価格指数、米4月S & Pケースシャー住宅価格指数、米6月消費者信頼感指数、29日に日本5月小売業販売額、米第1四半期国内総生産（GDP）確報値、30日に日本5月鉱工業生産指数速報値、米5月個人所得・個人支出、米新規失業保険申請件数、米6月シカゴ購買部協会景気指数、7月1日に日本5月有効求人倍率、日本5月雇用統計、日銀短観（6月調査）、米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

ユーロドルは1.04～1.06台での振幅が継続している。ユーロ圏でも米国などと同様にインフレ率の高進が警戒されている。欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、7月と9月の理事会で利上げに動く意向を表明しており、ユーロドルの下値を支えている。

ECBによる利上げにより、ユーロ圏の景気減速も警戒されている。23日に発表されたユーロ圏、ドイツフランスの6月の製造業、非製造業購買担当者景気指数（PMI）は予想から下振れしており、景気の伸び悩みを示すこととなった。さらにユーロ圏の中でもイタリアやスペインなどの財政基盤の弱い南欧諸国とドイツとの利回り格差が拡大傾向にあり、こうした事情がユーロの上値を抑える可能性がある。

ユーロドルは一時のような弱さはないものの、ECBの利上げ姿勢はFRBと比べて穏やかなものとなりそうだ。また、ユーロ圏経済の利上げに対する耐性は米国よりも弱いとみられる。こうした点からユーロドルは大きく崩れにくいものの、一段と大きく上

昇するには力不足とみられ、1.0500ドルを中心とするもみ合いが続くこととなりそう
だ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0350～1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に豪5月小売売上高、独6月消費者
物価指数速報値、30日に中国6月製造業購買担当景気指数、英第1四半期国内総生産
(GDP) 確報値、スイス6月KOF先行指数、独6月雇用統計、7月1日に中国6月
財新製造業購買担当景気指数、ユーロ圏6月消費者物価指数速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。